



シスコのゲートウェイの削除

削除するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。Cisco Unified Communications Manager データベースからゲートウェイのグループを削除する手順は、次のとおりです。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウでは、Cisco VG200 ゲートウェイと Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイのみを削除できます。

シスコのゲートウェイの削除

Cisco Unified Communications Manager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [ゲートウェイ] > [ゲートウェイの削除] の順に選択します。

[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [DN/ ルートパターン]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]

ステップ 3 2 番目の [検索条件] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 3 番目のドロップダウン リスト ボックスで、**[表示]** を選択して関連のエンドポイントを表示します。

ステップ 5 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されたすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

ステップ 6 複数のフィルタを追加するには、**[AND]** または **[OR]** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

ステップ 7 **[検索]** をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてゲートウェイを即座に削除するか、[後で実行] をクリックして後で削除します。

ステップ 10 **[送信]** をクリックして、ゲートウェイ レコードを削除するジョブを作成します。

ステップ 11 [一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 64 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.65-4 の「BAT ログ ファイル」](#) を参照してください。



注意

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのゲートウェイ レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

その他の項目

詳細については、[P.48-3 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [シスコのゲートウェイの削除 \(P.48-1\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの挿入 \(P.49-8\)](#)
- [ジョブのスケジュール \(P.64-1\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.65-4\)](#)

